

1. 古利根沼周辺の現況特性と課題

1) 古利根沼の概況

(1) 計画地の位置

古利根沼は、我孫子市の北端に位置し、沼の北側の水際がほぼ取手市（茨城県）との境界になっています。

図 我孫子市の位置

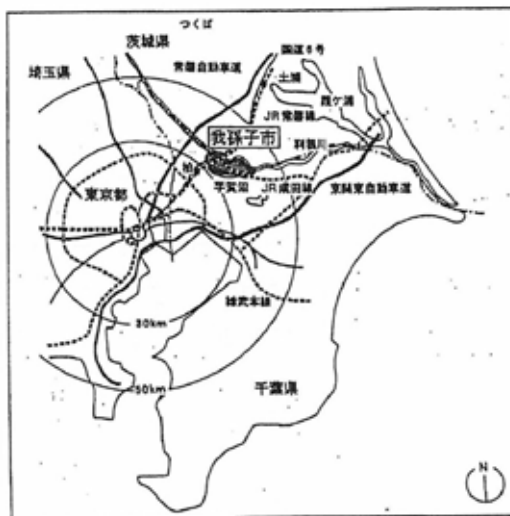


図 古利根沼の位置

(2) 古利根沼の形成過程と概況

古利根沼は、明治末から大正時代にかけて、利根川の流路変更工事によって本流の湾曲部が取り残されてできた、三日月形の沼です。

古利根沼は、我孫子市では数少ない、水面・水辺・斜面林・台地林が連続し、水と林の両方の環境で生活する生物が生息するなど特徴ある生態系が保たれてきました。

昭和40年代半ばに砂利採掘が行われ、沼底の地形が変わり、水生植物をはじめとする生態系に大きな影響を与えました。また、周辺の宅地化や農業環境の変化などにより、水質悪化が進みました。

しかし沼の周辺には斜面林や水田が今もなお残り、沼と一体となって、旧利根川の面影を残す貴重な自然環境・景観を形成しています。

古利根沼の諸元については次のとおりです。

- ・面積 約17ha (水面)
- ・形状 東西 約1.4km
平均幅 約122m (58~188m)
- ・平均湛水量 約479,000立方メートル
- ・最大水深 約5.5m
- ・水面標高 約Y.P. 2.2m
- ・流域面積 約482ha

(3) 現在の古利根沼

上空から見た古利根沼 (平成14年12月撮影)



2) 現況特性と課題

古利根沼の現況から、整備に向けての問題点・課題は次のように整理されます。

項目	現況	保全・整備に向けての問題点・課題	
自然条件	地形	利根川の旧河道で三日月形の沼。かつては西側は浅く水生植物におおわれていたが、砂利採取が沼の地形を改変し、水深が全体に深く、浅瀬・岸辺が非常に少ない。	・生態系の基礎となる水生植物の生息に不利。 ・人にとっての親水性、安全性に欠ける。
	沼岸の浸食	沼西側に隣接する農地や市道に影響を及ぼす恐れのある箇所がある。東側でも浸食は進んでいる。	・護岸整備、東側散策路周辺の補強が必要。
	景観	東側は台地林および斜面林が水面と一体となった水辺景観を保っている。西側は、周辺の田園風景の中にあるが、沼周辺は緑が少ない。	・東側の樹林地と水面からなる景観の保全と、西側の緑の復元が景観上の課題。
	鳥類	水鳥は沼の規模のわりに少ない。生息環境としては形状から不利であり、また水生植物の少なさが餌生物の少なさに繋がっている。	・周辺の田園や樹林地と一体となった環境保全と人の立ち入り制限が必要。 ・水生植物の保全・復元が必要。
	哺乳類	斜面林のある沼東側を中心にタヌキ、ノウサギなどが見られる。	・沼東側の岸・斜面林等の環境保全が必要。
	両生類・爬虫類	斜面林のある沼東側を中心にアズマヒキガエル、アオダイショウなどが見られる。	・沼東側の水辺・斜面林等の環境保全が必要。カエルには沼と水続きでない産卵場が必要。
	昆虫	トンボ、チョウは古利根を代表する生物として親しまれており、貴重種も確認されている。しかし沼内の水生昆虫は規模に比して貧弱であり、理由は水生植物の欠落。	・沼東側の水辺・斜面林等の保全が必要。 ・水生植物の保全・復元が必要。
	魚類	コイ、ヘラブナなどのほかブルーギル・オオクチバスもいるが、水質悪化に弱いオイカワなどは減少した。	・水質の改善が必要。
	陸上植物	沿岸部分にハンノキやハコネウツギなどの植生がまとまって残っている。近年ササ、タケが増加。	・適正な植生管理、保護が必要。
	水生植物	まとまったヨシ群落は西端のみであり、その大部分が陸上部。波浪や人の踏圧などにより浸食が進んでいる。	・ヨシの保全のためには、波浪防止・人の侵入制限が必要。

項目		現況	保全・整備に向けての問題点・課題
自然条件	水質	近年のCODは10～12mg/lで推移している。公共下水道の整備が進み、また四万十川方式、礫間などの水質浄化施設が設置された。公共下水道整備に伴い、流入水は減少。	<ul style="list-style-type: none"> ・流入水の水質改善が必要。 ・取手市との連携が必要。 ・新たな流入水の確保が必要。 ・水源涵養のための樹林地の保全が必要。
社会的条件	地理的条件	千葉県、茨城県の境界があり、正確には未確定。	・保全・整備に両県、両市の調整が必要。
	周辺土地利用との関係	西側水面は、通路状の民有地、市有地、市道をへだてて農振農用地に囲まれており、沼岸の傾斜が急。東側は台地および斜面林に接している。	・沼周辺の歩行者の散策路動線が繋がっていない。
人とのかわり	利用者のマナー	釣り、自然観察などに利用されている。問題点としてゴミや不法投棄・植物の踏み荒らしがある。	<ul style="list-style-type: none"> ・場所により、水辺の利用と保全とをわける必要。 ・マナー対策が必要。
	維持管理活動	市民による清掃などの維持管理活動が継続して行われてきた。	・市民による維持管理活動の継続と、環境学習・体験機会の充実。
	アクセス	実際に訪れたことのない市民も多く、場所がわかりにくい。	・道路サイン、駐車場等の整備が必要。